

(別紙4(2))

## 2 目標達成計画

事業所名 グループホームささゆり

作成日: 令和 4 年 11 月 28 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		新型コロナウイルス感染症が拡大する現状の課題として、利用者に施設内で安全安心して過ごされるよう、全職員で意識を高め感染防止の徹底を図り、感染者を出さないことが必要である。	施設内で感染者や濃厚接触者を出さないことで、日常生活を維持することが出来る。	①全職員が基本的な感染予防を行う(マスク・手洗い・出勤時検温・抗原検査) ②まん延時、県事務所・多治見保健所・瑞浪市高齢福祉課との連携 ③全職員に週2回の抗原検査を県の指示通り行う	コロナが収束するまで ヶ月
2	26	一部の職員で介護計画を作成し、理解しているので、全職員が介護計画を知らない。	介護計画を全職員に周知する	一部の職員だけでなく、全職員が計画作成に参加できる機会を作る。そして、それを継続する。	12ヶ月
3	3	課題は、当施設での強みであった地域とのつきあい(ボランティアや行事)がコロナ禍で交流が無くなったことである。コロナ終息後には再び地域との付き合いができ、ご利用者が地域といつまでも繋がった暮らしが出来るようになっていく必要がある。	コロナ終息後には、感染拡大前のように地域の皆様との交流が再開され、ご利用者が地域といつまでも繋がった暮らしが出来る	①コロナの終息を待つ ②祭り等地域の行事の再開を待つ ③利用者と共に地域を散歩する事により、地域の人々と2m以上の距離を保って会話する	コロナが収束するまで ヶ月
4	23	ケアプランが職員視点からの介護計画が多く見られ、ご本人の意向が聞き取れていない	ご利用者の1日の過ごし方ややりたい事、安心できる事をプランを通して支援して	ご本人の望む過ごし方ややりたい事を聞き取りプランに取り入れて目標に向けて支援していく	6ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。